

令和 7年 8月 21日

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

宮崎県		
学校名	管理機関名	設置者の別
宮崎県立宮崎大宮高等学校	宮崎県教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
宮崎県立 宮崎大宮高等学校	https://sites.google.com/g.miyazaki-c.ed.jp/miyazaki-omiya-wwl/research-and-development

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
宮崎県立 宮崎大宮 高等学校	https://sites.google.com/g.miyazaki-c.ed.jp/miyazaki-omiya-wwl/research-and-development	https://sites.google.com/g.miyazaki-c.ed.jp/miyazaki-omiya-wwl/research-and-development

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
 一部、計画通り実施できていない
 ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
 実施していない

<特記事項>

12月には、「生徒探究発表会」において、「グローバル協創」のカリキュラムの内容の説明を在校生・保護者・地域の人々に向けて行っている。また、同発表会では生徒による成果発表を通して、各生徒の「学びの見える化」を行っている。7月には、「グローバル高校生フォーラム in HINATA」で、「グローバル協創」で学習した内容の集大成を英語で発表し、県内高校・地域の関係者に内容を公開している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例によって実施されている「グローバル協創」は宮崎大宮高等学校文科情報科の目指すグローバル・リーダー育成に資する教育を行うものである。この教育を実施するための環境として、本県のALTや宮崎大学との高大連携等も継続されており、目標としている資質・能力は身につけていると考えられる。一方で、「リーダー育成」という目標は曖昧な部分を含んでおり、目標の再設定の必要性が指摘されている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を実施している宮崎大宮高等学校文科情報科では、英語の4技能検定試験等で顕著に効果が上がっていることが明らかとなっている。これまで課題としてきた他の教科・科目との連携については、次年度より理科の「科学と人間生活」との融合教科として実施するための研究開発を行っており、次年度より実施予定である。一方で、学習目標到達をより明確に把握するための方策をとることが必要との指摘がされている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

3に示すような課題を踏まえて、まず「リーダー育成」という目標については、学校関係者評価時に助言いただいたOECDラーニング・コンパスの「エージェンシー」と整合をはかりながら、今後検討を進める。また、より明確な学習到達度の把握のための方策についても、指導する教員そして学ぶ生徒を含めて誰でも把握、評価しやすいものになるように必要な助言をいただきながら検討をすすめる。